

第10章 言語教育法・実習

9 教育実習

(1) 言語知識を扱う授業の構成

言語知識とは、音声、文字、語彙、文法の知識のことです。初級では、主にこの言語知識を扱う中で、会話練習など言語運用に関わる活動も取り入れます。言語知識を扱う授業の基本的な構成は次のとおりです。

- ①ウォーミングアップ
- ②導入
- ③練習（MMC）
 - ・機械的練習（基本練習1／**M**echanical）
 - ・有意味練習（基本練習2／**M**eaningful）
 - ・コミュニケーション練習（応用練習／**C**ommunicative）
- ④まとめ

ア ウォーミングアップ

ウォーミングアップ（ウォームアップ）は、授業の初めに簡単なやり取りを行いながら学習者の状態を確認したり、授業に入るための環境を整えたりするための時間です。学習者の緊張をほぐす**アイスブレイク**の役割も果たします。あいさつ、出席確認、前回までの復習を兼ねたQ&Aなどの活動などが考えられます。このあとの導入につながるやり取りを入れることで、導入の効果を高めることもできます。

イ 導入

その回に学習する項目（新出語彙や新出文型など）を提示する段階です。いつどのような場面でその日本語を使うのかわかるような場面設定をし、場面の中で新しい学習項目を提示します。

ウ 練習（MMC）

- ・機械的練習（基本練習1／**M**echanical）

言語形式に焦点を当て、正確さの向上を目指す練習です。口慣らしのための機械的な**口頭練習（パターン・プラクティス）**を行います。

- ・意味練習（基本練習 2 / Meaningful）

言語形式に意味の理解も加わった練習です。意味の理解を促すために、写真やイラストなど場面がわかる教具を使用し、**場面練習（シチュエーション・ドリル）**を行います。

- ・コミュニケーションな練習（応用練習 / Communicative）

コミュニケーション場面における言語の意味に焦点を当て、流暢さの向上を目指す練習です。ロールプレイ、ショーアンドテル、スピーチなどの活動が考えられます。実際のコミュニケーションで起こり得る**インフォメーション・ギャップ（情報差）**、**チョイス（選択権）**、**フィードバック（反応）**が生じる活動、また**真正性**が高い活動を行うことが重要です。



〈インフォメーション・ギャップ〉

話し手と聞き手の間にある情報の差のこと。その情報差を埋めるためにコミュニケーションが行われる。

〈チョイス〉

会話の参加者が持っている選択権のこと。話す内容、話す順番、聞き出す情報などは会話の参加者が自由に決めることができる。

〈フィードバック〉

話し手の発話に対する聞き手の反応のこと。コミュニケーションにおいて、相手の話が「わかった」「わからない」などの反応が必要である。

エ まとめ

学習項目を確認しまとめの練習をする、学習者から質問があればそれに答えるなどをして授業をしめくります。

(2) 練習方法

ア 口頭練習の方法

リピート	教師の発話をそのまま繰り返す練習
コーラス	学習者全員でリピートしたり答えたりする練習
ソロ	学習者が一人でリピートしたり答えたりする練習
チェーン・ドリル	学習者 A→学習者 B、学習者 B→学習者 C、学習者 C→学習者 D…というように学習者同士が順番に Q&A をする練習
シチュエーション・ドリル	イラスト、写真、レリアアなどを用いて現実味の

ある場面を設定し、そこで使われる発話を練習する。場面練習ともいう。

コーラスと**ソロ**は、練習が単調化しないように適宜使い分けると良いですが、基本は「コーラス→ソロ→コーラス」の順で行います。まずは全員で一斉に発声し、その後一人ずつ練習することで個々の理解度や誤用を確認することができます。最後にもう一度全体で発声すると締めよく練習を終えることができます。場合によっては「コーラス→ソロ」で終えることもあります。

イ パターン・プラクティスの方法

機械的練習で行うのが**パターン・プラクティス**です。パターン・プラクティスとは、導入した文型を正確に身に付けることを目指す機械的な口頭練習のことです。**反復練習**、**変形練習**（**変換練習**）、**代入練習**、**拡張練習**（**拡大練習**）、**結合練習**、**完成練習**、**応答練習**などがあります。毎回全ての練習を行うわけではなく、文型の特徴や練習の目的に合わせて使い分ける必要があります。

反復練習	教師の発話を繰り返す練習 例) T: 飲みます→S: 飲みます T: 食べます→S: 食べます
変形練習 (変換練習)	教師の発話を決められた形に変える練習 例) T: 飲みます→S: 飲んで T: 読みます→S: 読んで
代入練習	教師の提示した語を使って文中の語を入れ替える練習 例) T: 明日デパートへいきます。本屋 →S: 明日本屋へ行きます。 T: 郵便局→S: 明日郵便局へ行きます。 T: 学校→S: 明日学校へ行きます。
拡張練習 (拡大練習)	教師が提示した語をつなげて文を長くしていく練習 例) T: 行きました→S: 行きました。 T: 東京→S: 東京へ行きました。 T: 電車→S: 電車で東京へ行きました。 T: 友だち→S: 友だちと電車で東京へ行きました。
結合練習	教師が提示した複数の文（語）を一つにまとめる練習 例) T: 小さい・軽い→S: 小さくて軽いです。 T: きれい・すてき→S: きれいですてきです。
完成練習	教師が提示した不完全な文を完全な文にする練習 例) T: あたまがいたいですから…→S: 薬を飲みます。 S: 病院へ行きます。

応答練習	質問に答える練習 例) T: 昨日どこへ行きましたか。→S: 病院へ行きました。
------	---

(3) 言語技能を扱う授業の構成

言語技能とは、聞く・話す・読む・書くの4技能を指します。中級以降では、言語知識に加えて4技能別に指導をすることが増えていきます。言語技能を扱う授業の基本的な構成は次のとおりです。

①前作業（プレタスク）
・ 背景知識（スキーマ）を活性化させる
・ 本作業に必要なことばや知識を確認する
・ 目的を意識させる
②本作業（本タスク）
・ 聞く／話す／読む／書く
③後作業（ポストタスク）
・ 他技能と結び付ける（多技能統合型）
・ フィードバック、評価する

上記の基本構成を、4技能別に当てはめると、例えば次のような活動が考えられます。

	聞く	話す	読む	書く
前作業 （プレタスク）	・ 素材の内容に関わる学習者の経験や意見を聞く ・ キーワードを確認する ・ 聞く目的を明確にする	・ 本作業の状況設定を確認する ・ やり取りを円滑に行うための注意点を確認する ・ ロールカードを読む	・ 素材の内容に関わる学習者の経験や意見を聞く ・ キーワードを確認する ・ 読む目的を明確にする	・ 書く目的を明確にする ・ テーマを決める ・ 情報を集める ・ アウトラインを作成する
本作業 （本タスク）	・ 大意を聞き取る ・ 細部を聞き取る	・ ロールプレイを行う	・ 大意を把握する ・ 精読する ・ 音読する	・ 下書きをする ・ 推敲する ・ 清書する
後作業	・ 素材に使う	・ 会話例を示	・ 素材に使う	・ 発表する